

## 特別セッション要旨

### S1. 「働き方改革を踏まえた港湾・漁港・海岸事業等の進め方」

海上工事を安全かつ効率的に進めるポイントとして「作業可否の事前予測」、「自然への対応力」、「技術者の心技体」があります。その中で「働き方」が注目されています。2017年3月には「働き方改革実行計画」が発表され、労働時間、女性・若者の活躍、ワークライフバランス（子育て・介護と仕事の両立、イクメン・イクボス）、ハラスメント防止など、様々な言葉が飛び交うようになりました。個々の作業員がその日のノルマをこなすだけでなく、組織としても長期に持続可能な発展を遂げることがコンプライアンスの一つとして求められています。

これらの課題や解決策について最新の情報を共有して幅広く議論することを目的に、2021年の海洋開発シンポジウムでは特別セッション「働き方改革を踏まえた港湾・海岸事業等の進め方」を開催しました。そこでは、港湾における生産性向上の全体像、海上工事の可否判断に用いる波浪予測技術、さらには、設計、現地調査、施工、漁港での施設点検及び市場運営といった、作業員や担い手が体を動かし道具を駆使する現場について、計8件の発表があり、それぞれの現状や今後の課題について情報や意見を交換しました。それでも、まだ議論すべきことはたくさん残っているのではないかと思います。

そこで、2022年も特別セッションを開催し、「働き方」を中心に「作業可否の事前予測」や「自然への対応力」も含めて、港湾・漁港・海岸事業等を実施する上での課題とその解決策に関して、幅広い議論を行い、2年間のまとめをしたいと考えております。コロナウィルスの蔓延を経験して見出した新しい価値観、気候変動の緩和策や適応策、洋上の大型施設の建設に関するものを特に歓迎し、2021年に発表した内容でも新たな進展があるものを歓迎します。

### S2. 「ブルーカーボン生態系の増殖技術」

脱炭素社会への取り組みが加速するなか、沿岸域における温暖化緩和策としてCO<sub>2</sub>の吸収源対策であるブルーカーボンが注目されています。ブルーカーボンを促進するためには、海草・海藻等のブルーカーボン生態系を増やすことが鍵となります。しかし、富栄養化した海域では、光量不足や有機物の堆積による海藻の着生基盤の劣化が課題となっています。また、富栄養化していない海域でも、食害や栄養塩不足等が課題となっています。加えて、温暖化に伴い、水温上昇や在来種以外の新たな食害生物の対策が、今後ますます必要になると考えられます。これらの課題に対して、有機物が堆積し難い被覆ブロック、食害を防ぐブロック形状、海藻の着底を促すブロック形状や表面形状、海藻の成長を促す構造物の材質など様々な技術開発が、港湾、漁港、海岸だけでなく洋上風力発電施設等において検討されています。

そこで、本セッションでは、ブルーカーボン生態系の中で藻場に注目し、工学的な視点から藻場の増殖技術について、幅広い議論を行いたいと考えています。皆様の技術開発の成果を歓迎します。